

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.6 vol. 122

熊本地震における 鹿児島医療センター医療班 活動報告

4月14日（木）発生21時26分、熊本にて震度7の地震、さらに追い打ちをかけるように16日（土）1時25分に震度7の本震が発生しました。近年では平成23年3月11日の東日本大震災以来の激震でした。この熊本地震で鹿児島でも震度4を記録し、深夜にもかかわらず、近隣者は病院へ駆けつけました。テレビをつけると橋が跡形もなく流された阿蘇大橋、石垣が崩落した熊本城、建物の崩壊が相次いだ益城市街など、凄惨な画像が次々と飛び込んで来ました。

深夜すぐ幹部職員間で連絡を取り合い、翌土曜日の8時に幹部職員及び班長以上の事務職員を緊急に招集し、対策を検討することとなりました。そこで地震による当院の診療機能には影響がないことを確認すると、被災地の支援について国立病院機構九州グループと調整を行いました。1回目の地震の後で、当院は4月21日（木）から被災地支援のための医療班活動を行うことになっていましたが2回目の本震を受け、18日（月）に前倒しすることとなりました。医療班のメンバーは上坊循環器内科医師、伊藤救急看護認定看護師、木之下看護師、佐澤薬剤師、上山庶務班長、鮫島保安係（車両担当）の6名で編成し、早速、出発に向けて準備することとなりました。

医療材料や医薬品は九州グループと東日本大震災時に派遣された医療班が携行したものを参考としながら調整し、併せて日常生活に必要な衣類、食糧を準備しました。特に被災地では断水及びガス停止が続いているとの情報があったので水やインスタント食品、コンロを用意し、宿泊施設も期待できないことから寝袋も準備しました。装備も大きくなり車両はワゴンタイプの大きなものを使用しました。

<活動初日>

初日の18日（月）は7時50分に病院を出発しました。震災により九州自動車道・八代～熊本間は不通となっており一般国道を走行しながら、12時30分に熊本医療センターに到着しました。熊本医療センター内の研修センターに九州グループの本部が設けられ、ここを拠点として各地からの医療班が集結し指示を受けることとなりました。この日は17時からミーティングが行われ、被災地における医療ニーズに状況把握が急務であること、そのためには熊本市で把握している避難所を一箇所ずつ巡回する必要があること、また、2回目の地震で非常に甚大な被害を受け、多数の被災者が避難している益城町総合体育館の診療も交代であることについて説明を受けました。初日は引継のみで研修ホールで各自寝袋により就寝となりました。

<活動二日目>

二日目は熊本市東部地区（画図方面）を中心に5カ所の避難所を巡回しました。地震のため通行できなくなっている箇所も多く、車のナビではなく紙の市街図を使用しました。発災から5日経過しても、時折強い余震に見舞われ診療中、移動中にもかかわらず周囲の安全を確認しながらの行動となりました。



出発式



地震で大きく
波を打った路面

避難所の医療ニーズとしては3カ所ではすでに別な医療機関が巡回診療しており必要ありませんでしたが、残りの2カ所では地震発生以降全く診療が行われておらず、当院が臨時的診療所を設置すると合計31名が診察を受けました。内容はかぜによる咽頭痛、高血圧等の定期処方が多く地震直後の急性期の診療から通院ができないことによる内服薬切れや、長期化する避難生活による心理的ケアに移行していることがうかがわれました。

どの避難所も断水しているため仮設トイレを使用、入浴できる場所も一部の銭湯に限られ、ペットの持ち込みの規制も難しいことから衛生面がかなり心配されました。また夜になると、車中泊をする方が駐車場に集まり、無理な体勢を長時間と続けることによって起こるエコノミー症候群も心配されました。



熊本市内避難所での診療

<活動三日目・四日目>

三日目から四日目は最も被害の大きかった益城町総合体育館避難所へ行くこととなりました。現地への道路は各所で寸断されており大きく迂回せざるを得ず通常より1時間以上かかり11時に総合体育館に到着し、前日から泊まり込んでいた岩国医療センターから引継ぎを受けました。

益城町総合体育館は2棟に分かれており、それぞれの棟内に国立病院機構と日赤病院が診療所を設置していましたが、19日午後よりグラウンドにドーム型のテントを日赤が設置し、国立病院機構と日赤合同の診療所として運営することとなりました。その結果空いたスペースは被災者の居住空間として有効活用されることとなりました。



益城町総合体育館

体育館は車中泊を含め約1,200名の住民が避難しており、断水していることから入口には仮設トイレが並び、駐車場の一角には自衛隊がテント型の簡易浴室を設置していました。体育館内は廊下やロビーのあらゆるスペースに布団が敷かれ住民の方が寝起きをされていましたが、ペットの持ち込みや、コンクリート床のため土足を認めていることから、衛生面ではかなり過酷な環境で避難生活を送られていました。この日も車中泊の方が多く夜になって2名の方がエコノミー症候群の疑いで日赤病院まで救急搬送されています。



益城町総合体育館での診療

避難所では地元自治体との連携を深めるため毎日7時、11時、22時に体育館の事務室で日赤、薬剤師会、地元ボランティア（炊き出し、物資、清掃等）と合同でミーティングに出席し、情報交換を行いました。診療は24時間行われており、私達が担当した20日午後から21日午前中の間には日赤とあわせて220名の患者がひっきりなしに訪れ、うち80名を当院で診察しました。さらに、朝夕、避難所内を2グループに分かれて巡回し、基礎疾患を持った方（前日までの医療班から引き継いだ方等）への診療もきめ細かく行いました。

内容は、地震前に受けていた処置、投薬の希望が多くありました。薬については熊本薬剤師会にて災害時の供給体制があり当院の持参薬は必要ありませんでした。しかし、医師の手元には患者さんが今までかかっていたカルテがないため、処方する医師、薬剤師は投薬ミスがないよう十分注意が必要でした。中には「お薬手帳」を持参されている方もいて手帳があることでスムーズに投薬できました。

23時を過ぎたころ、少し患者の来院も落ち着き、体育館内の図書室の一角で仮眠を取りました。翌日は、6時から診療につきましたが朝早くから切れた内服薬の追加を求める方が殺到し、息をつく間もないうちに11時の引継ぎの時間となり松江医療センターと交代しました。その後、熊本医療センター本部へ戻り、避難所の状況を報告し帰途につきました。

最後に、今回の熊本地震で被災された方の一日も早い復旧を心からお祈り申し上げまして、医療班活動報告とさせていただきます。

（文責：庶務班長 上山 卓朗）

研修医の声




小田原 敦子

4月から鹿児島医療センターで研修をさせていただいております、研修医1年目の小田原敦子と申します。研修が始まり2ヶ月目に入りましたが、未だ慣れないことが多く、周りの方々にはご迷惑をお掛けしていることと思います。熱心に指導して下さる先生方をはじめ、看護師の皆様、スタッフの皆様へ感謝しつつ、一日でも早くお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



松崎 尚寛

4月から2年間、鹿児島医療センターで研修させていただくことになりました研修医1年目の松崎尚寛と申します。研修がはじまって2ヶ月が経とうとしていますが、指導医の先生をはじめ多くの方々に支えていただき充実した毎日を経過することができています。まだまだ慣れないことばかりで周りの方々に多々ご迷惑をおかけしていますが、精一杯がんばっていきたく思います。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



清原 佐央里

4月から2年間、鹿児島医療センターで初期研修医としてお世話になります、1年目の清原佐央里と申します。研修が始まり早くも2ヶ月が経とうかというところですが、まだまだ慣れないことばかりで先生方、スタッフの方々皆様に大変ご迷惑をお掛けしていることと思います。そんな中丁寧に優しくご指導、サポートして下さる皆様方に心身ともに支えられ、充実した研修を行うことができていることに感謝の限りです。これから精進し、一刻も早く鹿児島医療センターの医療を支える一員として皆様のお役に立つことのできるよう頑張っていきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



窪 凜太郎

平成28年度から鹿児島医療センターで研修させていただいております研修医1年目の窪凜太郎と申します。研修が始まってまだ間もなく、未だ分からないことだらけの日々ですが指導医の先生方をはじめコメディカルの方々、2年目の先輩方、同期など実に多くの人のサポートをいただきながら充実した研修生活を送っております。ここ鹿児島医療センターでの研修を通して医師としての礎を築き、少しでも社会の役に立てるよう精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



田方 健人

研修医1年目の田方健人と申します。4月から鹿児島医療センターでお世話になっております。生まれ育った鹿児島で医師として働くことができることを、とても嬉しく思っています。研修が始まって2ヶ月目に入りましたが、まだまだ慣れないことが多く、周りの方々に多々ご迷惑をお掛けしていることと思います。早く一人前となり、少しでもスタッフの方々のお役に立てればと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



濱島 雅代

4月から2年間、鹿児島医療センターで研修をさせていただくことになりました、研修医1年目の濱島雅代と申します。4月から6月まで第一循環器内科にて研修をさせていただいております。研修が始まってからのこの2ヶ月、分からないこと、慣れないことばかりでご迷惑をお掛けしておりますが、先生方、スタッフの皆様方から多くのことを学び、一日でも早く、お役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



中別府 聖一郎

4月から2年間鹿児島医療センターで研修させていただく1年目の中別府聖一郎と申します。研修をさせていただいて、1ヶ月経ちますが、手技やカルテの使用法だけでなく、社会人としての振る舞い等、慣れていないことばかりで、周りの方々にご迷惑をおかけしてばかりの毎日ですが、職員の方々に優しく支えていただきながら、忙しいながらも充実した日々を送らせていただいております。まだまだ、病院で力になれることは少ないですが、一日も早く、皆様のお役に立てる存在になれるよう頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



堂蘭 直樹

4月から鹿児島医療センターでお世話になっております研修医1年目の堂蘭直樹と申します。研修が始まり2ヶ月目に入りましたが、不慣れなことも多く、大変ご迷惑をおかけしています。しかし、間違いをした時や困った時に優しく丁寧に指導して下さる指導医の先生方、スタッフの皆さんには本当に感謝しております。まだまだ勉強不足ではありますが、少しでも早く仕事に慣れてお役に立てるよう、そして自分自身も、もっと成長していけるよう、1日1日を大切に頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



森山 瑞葵

4月から2年間、鹿児島医療センターで研修をさせていただくことになりました、1年目の森山瑞葵と申します。研修が始まってから1ヶ月が過ぎていますが、まだまだ不慣れなことばかりで周りの方々には色々ご迷惑をお掛けしていることと思います。それでも、指導医の先生をはじめ多くの方々に優しく教えていただくことによって、日々少しずつではありますが成長していると感じ、充実した毎日を送らせていただいております。これからも失敗ばかりしてご迷惑をお掛けすると思っておりますが、少しでも早く仕事を覚え、医師としても社会人としても一人前になれるよう頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



木山 優

今年度から鹿児島医療センターで研修医として勉強させて頂いております、木山優と申します。この二ヶ月間は脳血管内科で研修させていただき、指導医の先生方、スタッフの方々の丁寧なご指導を受けながら、採血や頸部エコーなどの手技や電子カルテの使い方等病院の業務について学んでおります。慣れない事ばかりでまだまだご迷惑をおかけしてしまうと思っておりますが、一日でも早く仕事に慣れ、多くのことを学び、少しでも皆様力になれるよう頑張りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



濱田 拓人

4月から鹿児島医療センターで初期研修をさせて頂いている、一年目の濱田拓人と申します。手術室で麻酔のお手伝いをさせて頂く中で多くの患者様やスタッフの皆様と触れ合い、将来医療に貢献できる人材となるべく勉強をさせて頂いている毎日です。学生時代は見学しか出来なかった事を実際に行い失敗ばかりですが、全てを成長の糧とし努力を重ねていこうと考えています。手術室では多くのスタッフが同時進行で手技を行う為、全体の流れへの理解がまだまだ不足しています。知らず知らずのうちにご迷惑をお掛けすることが多数あると思いますが、一日のうち一つは出来る事を増やして病院の戦力となれるよう頑張っております。2年間、よろしくお願い致します。



堀之内 健祐

4月から鹿児島医療センターで研修させて頂いている研修医1年目の堀之内健祐と申します。研修が始まって二ヶ月たちますが、まだまだ慣れないことばかりで、多くの方々にご迷惑をおかけしていると思います。現在、指導医の先生をはじめ多くの方々に温かく見守っていただき、非常にやりがいのある充実した研修生活を送ることができております。知識的にも経験的にも足りないことばかりですが、いろいろなことに挑戦する機会を与えていただき、少しずつですが成長できている気がします。これからはより精進して研修生活に励んでいきたいと思っておりますので、これからもご指導のほどよろしくお願い致します。

新任紹介



**放射線科
内山 典明**

5月に市立病院から移って参りました放射線科の内山典明と申します。以前当院が伊敷の国立病院であった時分に短期の研修医として勤務させて頂き早や40年、あの当時はCTが普及し始める前の時代で世の移り変わりの速さを実感させられます。放射線治療と血管内IVRが専門ですので、何程のこともできないかもしれませんが、初心を思い出しながら出来るだけ皆様のお役に立てたらと思っております。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



**放射線科
井手上 淳一**

このたび4月1日付けで放射線科に赴任してまいりました井手上淳一と申します。よろしくお願い致します。放射線科では主に画像診断と緊急IVRに携わっていきますが鹿児島医療センターは鹿児島の医療を考えるうえで重要な拠点となりますので大変大きな責任を感じております。今後はこれまでも増して鋭意努力する決意ですので何卒なお一層ご指導ご支援くださるようお願い申し上げます。



**消化器内科
指宿 和成**

4月より鹿児島医療センターでお仕事をさせて頂いております消化器内科の指宿和成と申します。これまで県内のいくつかの病院で働かせて頂きましたが、鹿児島医療センターでの勤務は初めてとなります。当院の消化器内科は様々な消化器疾患に対応できる体制となっており、また新たに勉強できることを楽しみにしています。当院は多くの科がありますので、他科の先生方とも連携して充実した医療を提供できるように精進したいと思います。

皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、宜しく願い致します。



**糖尿病・内分泌内科
時任 紀明**

みなさま、お疲れ様です。平成22年7月より、東病棟8Fの臨床研究部において、客員研究員として主に基礎研究を行って参りました、時任紀明と申します。この度、糖尿病内分泌内科の医師として着任いたしました。気付けば、中堅～ベテラン(?)と呼ばれるような年齢になってしまいましたが、長らく臨床・病棟業務から離れておりましたので、どこまで貢献できるか期待と不安が入り混じっているというのが正直な気持ちです。皆様には慣れるまで色々にご迷惑をおかけしてしまうかと思いますが、初心を思い起こし、これまでの研究生活の恩返しの気持ちも込めて、精一杯努力するつもりですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・椎原・吉留・菊永・久保・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

